甲府市校務 DX 計画

1. 校務 DX 化の現状及び成果

甲府市では、GIGA スクール構想の推進により、全ての児童生徒に 1 人 1 台端末を配備すると共に、高速大容量ネットワーク環境（SINET）を整備した。これにより、ICT を活用した教育の質の向上が進み、クラウドサービスを利用した学習基盤（Google for Education）を活用した授業では、児童生徒の主体的な学びや、協働的な学びが促進されており、従来以上の深い学びが生み出されつつある。また、情報モラル教育の強化も促進しており、安全かつ効果的な ICT の利用が可能となっており、児童生徒の情報活用能力の向上が進んできた。

統合型校務支援システムの導入により、教職員の日常業務の一部が効率化され、特に成績管理や児童生徒情報の一括管理など負担が軽減されている。今後、さらなる業務改善を目指し、次期統合型校務支援システムの更改に備えている現状である。加えて、生成 AI の活用も進み、主に校務改善の面で先進的な事例も見られるなど、効果的な活用が進んでいる。授業での活用、校務での活用など、様々な面からの取り組みを通じて、教育現場のデジタル化が着実に進展しており、その成果が見えつつある。

2. 校務 DX 化の課題

校務 DX をさらに推進するにあたり、いくつかの課題が明らかになっている。まず、教職員間で ICT スキルの個人差が見られる。そのため、一部の業務プロセスが効率化されていない現状がある。また、クラウドサービスの利用拡大に伴い、教育データの安全性を担保しつつ、いかに活かしていくかが問われている。

また、セキュリティリスク対策は十分に対策されているが、常に意識すべき課題でもある。さらに、現行の校務支援システムは基本的な業務には対応しているものの、分離状態のネットワークにより、利便性に課題がみられる。このため、教職員の業務負担をより軽減するためには、次期校務支援システムのさらなる自動化や拡張が求められる。

3. 校務 DX 化の今後の計画

今後の校務 DX 化に向けた計画として、まずクラウドサービスの利用拡充を図る。そのためには、甲府市の教育データセキュリティ対策基準を強化し、安全で信頼性の高いクラウド環境を整備することが重要である。また、教育データの蓄積と分析を通じて、児童生徒一人ひとりに最適な学びの機会を提供し、教育評価の質をさらに向上させることを目指していく。

次に、生成 AI の活用を推進し、教職員の業務負担の軽減を目指す。具体的には、採点業務や文書作成、校内連絡業務等、これまで時間を要していた校務画面への AI 技術の導入範囲を拡大し、効率化を図る。また、これらの技術を現場に適応させるための教職員向けの研修やサポート体制を整備していく。

さらに、教職員が使用する PC および校務支援システムの更新に向けた検討を進めていく。この更新では、現行システムの課題を洗い出し、ユーザビリティや操作性を向上させることを目的とする。また、最新の教育ツールや生成 AI との親和性を確保することで、より柔軟で効率的な校務の実現を目指す。

以上の計画に基づき、教育現場における DX 化を加速させ、児童生徒にとって魅力的で質の高い学びを提供するとともに、教職員の働き方改革を推進していく。